

防災だより

その60

防災専門官 野田 秀敏

梅雨の豪雨は脅威！

平年の梅雨明けは、7月17日頃ですが、梅雨末期には豪雨や台風襲来の季節を迎えます。本市には、土砂災害や急傾斜地(崖)の崩壊箇所、洪水浸水想定区域があり、毎年、発生する豪雨、特に梅雨末期の豪雨から命を守るには注意が必要です。

新ハザードマップ活用
新ハザードマップで住んでいる地域の災害リスクを確認しましょう。
土砂災害の危険がある場所や洪水浸水想定区域などのリスクをマップで確認するなど有効活用してください。

市ホームページ(ページID:1979)でも閲覧できます。

自宅の災害リスク

本市では、昭和48年と平成15年の2回、豪雨災害により15人の尊い命が犠牲になる災

害が起きています。

昭和48年は、梅雨の豪雨で地盤が緩み土石災害や急傾斜地の崩壊など土石流が発生、平成15年も土石流と御笠川の洪水で約300棟以上の家屋の浸水被害が発生しました。

御笠川は、鷺田川や大佐野川の3河川合流地点もあり、豪雨時、増水すると洪水の危険性が高まります。
自宅周辺の土石流や浸水のリスクを確認しておきましょう。

避難先はご留意

避難情報(警戒レベル3)の発令前に、通常、自主避難所3カ所を開設しています。
特に災害リスクのある地域に住んでいる人や一人暮らしの人は、早めに自主避難所に避難しましょう。

【自主避難所】

- ①太宰府館 幸府3-2-3
- ②プラム・カルコア太宰府 (中央公民館) 観世音寺1-3-1
- ③総合体育館(とびうめアリーナ) 向佐野21-2

市では、避難情報「高齢者等避難(警戒レベル3)」発令時、指定緊急避難場所と指定避難所を開設します。

新ハザードマップで、避難先となる近くの避難所や避難経路を確認しておきましょう。

また、災害の種類・程度によつては避難所や経路が使用できないことも予想されるので、必ず予備の避難所と経路も歩いて確認しておきましょう。

御笠川の河川情報

本市を縦断する御笠川の水位(落合橋)が、豪雨や洪水で「避難判断水位(2.55m)」に到達した場合、「はん濫警戒情報」を発表する場合があります。

御笠川沿いや周辺の低い土地に住んでいる人は河川情報に注意し、素早い避難を心がけましょう。

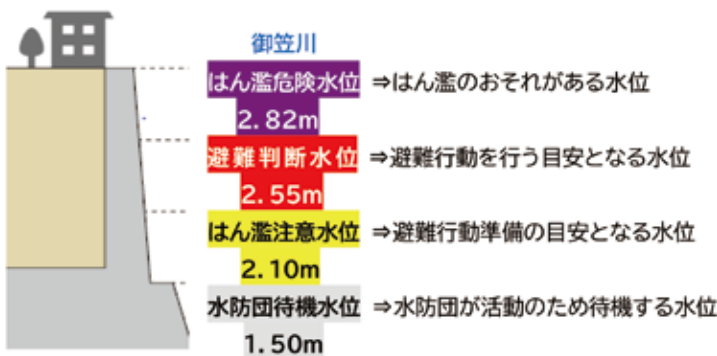
洪水時の避難は、長い棒をつえの代わりにして水中のマンホール、排水溝や溝に注意して避難しましょう。
膝(約50cm)以上の水深があると、大人でも歩行が困難になり危険です。無理に避難せず、2階や安全な高い場所に避難しましょう。

・足の不自由な高齢者は背負い、幼児も背負うか腹側に抱っこしましょう。

・小さな子どもは大人の体とロープでつなぎ、浮き輪があれば身につけロープでつなぎます。

・洪水時の避難は、大人でも通常の約2.5〜4倍の時間がかかり、危険度も増しますので、浸水する前の早めの避難を心がけましょう。

御笠川(落合橋)水防基準水位



福岡県5年連続大雨特別警報発令

2017年	2018年	2019年	2020年	2021年
7月九州北部豪雨	平成30年7月豪雨	前線による大雨	令和2年7月豪雨	8月の大雨

